

第32期日本ロシア学生交流会 関東本部
報告書



第 32 回日本ロシア学生交流会 関東本部 報告書

日本ロシア学生交流会代表
早稲田大学 2 年 泉谷知輝

日本ロシア学生交流会は設立から 30 年間、日本とロシアの友好的関係を目指し、学生という立場を利用した多様な交流活動を行ってまいりました。

弊会の長い交流の歴史の中で、両国の文化や価値観に対する理解と尊重を深めることができたことは、私たち学生にとってかけがえのない財産となり、心の中に深く刻まれました。このように学生間交流が今日まで続いておりますのも、情勢の激動の中、交流関係を支えてくださった歴代の先輩方をはじめ、支えて下さった会員の皆様の熱意とご尽力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

今年、私は代表として、弊会には 2 つの使命が課せられていると気付かされました。1 つ目は「如何にしてロシア人と友好的関係を築くか。」です。

私たちは本年度もロシア人を日本に受け入れる訪日企画、日本人がロシアに赴く訪露企画を行いました。ホームステイを通じて寝食を共にすることで、お互いの文化、慣習について見つめ直すことができました。私自身もホストファミリーとして訪日企画に参加することで、十日間という短期間ではありましたが、無二の友を得ることができました。来年、ロシアで再会できることを楽しみにしております。

もう 1 つは「如何にしてお互いの国の魅力を伝えあうか。」です。私たちはロシア関係分野の就活イベント「ミチター」、東京大学の文化祭「五月祭」への出店、ロシア語教室、ロシア料理会、バラライカ教室を通じて、文化、言語、芸術等の多くの観点から、一般の人にはあまり知られていない、ロシアの魅力を日本人に伝えられました。また訪日、訪露企画を通じて、日本の魅力をロシア人に伝えられました。本年度のラグビーワールドカップ、来年度の東京オリンピックは日本文化の良さを伝えるチャンスです。弊会も積極的に関わっていきたいです。

来年度の弊会の運営も、上記の 2 つの使命を果たし、学生という立場から日露友好を目指していきます。5 年後、10 年後、私たちの地道な活動が、人を繋げ、国家間を繋げていくきっかけになるよう挑戦してまいります。来年度の活動に向け、引き続き助成財団をはじめとした多くの方の御支援と御協力を賜りますことを改めてお願い申し上げ、弊会の決意の御挨拶とさせていただきます。

東京都立北園高等学校

太古の昔から、言語の壁を乗り越えるもっとも大きなモチベーションとなってきたのは、交易や学問のツールとしたいという考えよりも、やはり、心を通わせ合いたい、相手をもっと知りたい、自分をもっと知ってほしいという、「極めて人間的」な考えであったと言えるでしょう。その純粋な想いが活動の根底にあるからこそ、日本ロシア学生交流会は、これまでに 30 年の歴史を積み重ね、そして現在も、若くエネルギーに溢れる眼差しで時代の流れを注視し、シンポジウム「ミチター」やロシア・ユーラシア文化祭「プラーズニク」、一般の方向けのロシア語教室「プロGRESS」などの、現代社会の求める機会を提供し、情報を発信し続けることができているのだと思います。会員の学生の中には、ロシアの若者文化を日本に紹介するビジネスを立ち上げたり、ロシアの暮らしやロシアでの日本文化普及活動を YouTube で動画配信したりしている例もあると聞き、まさに今を生きる若者だからこそその発想や行動力により、日本とロシアを結ぶ架け橋は、多様化し、着実にその数を増やし、少しのことでは揺らぐことのない柔軟な強さを獲得できているのです。

わたしは高等学校でロシア語を教えることと並行して、限りある時間内で生徒たちにより有効な学習をしてもらいたいとの考えから、現実に近い環境での体験が、大いなるインパクトを伴って学習者の中に刻み込まれることを願って、教室外でロシア文化に触れる場を設けたり、同年代のロシア人青少年と交流したりする機会をなるべく多く提供できるよう努めてきました。そのようにして育ててきた生徒たちの中には、その後もロシアとのかかわりを持ち続け、自らをさらに成長させながら、同時に周囲に新しい種を蒔いている子たちもおり、大変頼もしく、うれしく思いながら後ろ姿を見守っています。わたし自身は、今年度、シンポジウム「ミチター」、ロシア語教室「プロGRESS」、ロシア料理教室、バラライカ教室等で日本ロシア学生交流会の活動にかかわることができました。大学生の団体ではありませんが、ロシア語を学ぶ現役高校生たちにもさまざまな機会を提供してくれ、「学生・生徒」レベルでの高大連携にも取り組んでくれたことに、大変感謝しています。

これからも、学生たちの夢が引き継がれ、想いが形となってゆきますように。

1. 1 当会の沿革
1. 2 関東本部について
1. 3 これまでの主な活動

第2章 2019年度の活動について

2. 1 年間活動概略
2. 2 年間収支報告
2. 3 今後の展望

第3章 2019年度訪日活動報告

3. 1 訪日活動について
 3. 1. 1 企画概要 12
 3. 1. 2 収支報告
3. 2 企画内容
 3. 2. 1 主な企画内容 15
3. 3 報告
 3. 3. 1 各日の報告 17
 3. 3. 2 参加者感想

第4章 2019年度訪ロ活動報告

4. 1 訪ロ活動について
 4. 1. 1 企画概要 32
4. 2 企画内容
 4. 2. 1 主な企画内容 34
4. 3 報告
 4. 3. 1 各日の報告 35
 4. 3. 2 参加者感想 38

第5章 補足

5. 1 「ミチター」について
5. 2 交流都市の紹介
5. 3 ロシア語教室について
5. 4 ロシア料理会について
5. 5 バラライカ教室について

第一章 日本ロシア学生交流会について

1989年、ソ連を含む東欧諸国は激動の年であった。現地への渡航もままならない中、ソ連に赴き現地で同世代の学生たちと直接ひざを付き合わせて語り合おうと考えた学生有志がいた。彼らは同年6月、当会の前身となる「日ソ学生交流会」を設立した。当時はソ連に関する正確な報道も少なく絶対的な情報量が不足していたが、得られた僅かな情報を元にして毎週のように「ソ連とは、新生ロシアとは何か」と熱い議論を交わしていた。当初2年間はモスクワを訪問し、とにかく現地の学生との対話をしようという意気込みの元に活動していたが、ソ連・ロシア激動の時代で交流先を見つけることすら困難だった。そのような中、財団からの助成金が一時打ち切れ、やむなく自費でモスクワへの渡航が2度実施された。格安航空券の無いこの時代に「学生が自費で」渡航するのに必要な資金集めに際しては、想像を絶する苦労があった。

1994年、厳しい状況が続く中、会員のカンパによって第1回訪日企画が敢行され、モスクワから1名の学生を招致することができた。

1995年は、当会にとって大きな転機の年になった。シベリア地域最大の都市にして、ロシア第三の都市、ノヴォシビルスク市の学生と新たに定期的な交流事業が開始される運びとなったのである。ノヴォシビルスクには日本語を教えている高等教育機関が複数あるが、当時は主にノヴォシビルスク国立大学の東洋学部との交流を継続的に実施した。ここで、ノヴォシビルスクと当会の交友関係にいたる経緯も大変興味深く特筆に値する。1995年当時に当会の顧問を務めてくださった和田氏とフロロヴァ女史との出会いである。和田氏は、第二次世界大戦で強力な軍事力を誇ったソ連に鮮烈な印象を抱いたことからロシアに関心をもっていた。そこで、長年に渡る金融マンとしての職業人生を引退された後は精力的にロシアの大学を回って日本語学習の指導をなさっていた。また、自ら多くの在日ロシア人留学生の身元保証人として活動されるなど、日ロ両国の架け橋になろうとご尽力なされた方でもあった。あるとき同氏がノヴォシビルスクを訪ねた際、当時日本との交流が皆無に近かった同地で日本語を教えている教授がいると知った。その教授こそがフロロヴァ女史である。彼女はソ連邦成立直後の幼少時代に中国東北部へ亡命し、「満州国」に成り代わった同地の日本人学校に入学した。その後、高等女子学校まで日本語による教育を受け、フルシチョフ時代のソ連に帰国して大学で教鞭をとった。フロロヴァ女史の半生には常に戦争がついてまわった。和田氏とフロロヴァ女史は、戦争の記憶という共通項で結ばれて意気投合し、両氏が仲立ちとなって日ロ間学生交流の芽を育もうということで意見の一致を見た。当時フロロヴァ女史の勤務していたノヴォシビルスク国立大学に本会の姉妹サークルとして「東洋クラブ」を結成し、万全の受け入れ態勢が整ったところで第1回ノヴォシビルスク訪問事業が実行された。それまで一貫してきた「ホーム・メイド」の交流活動をモットーとして継続し、当会の活動を重ねた。

1996、97年は春先、桜の蕾がほころぶころに訪日企画を実施し、思い出作りには絶好の企画となった。築地の魚市場を訪れて市場関係者に突撃インタビューを試みたり、レンタカーを借りて富士山に登ったりと、バリエーションと新鮮さに富んだ活動を行った。日本の家庭を知ってもらうことを目的としたホームステイ事業を本格的に始めたのもこの頃である。訪日企画に際してはロシア側と「財団の助成金に関する覚書」に署名・調印を行うなど、組織としての関係強化について協議が重ねられた。また、失敗に終わってしまったが、ロシア極東地域のブリヤート共和国にあるウラン・ウデ国立大学との交流開始を模索した年でもあった。

1998年からはそれまで2期に渡って同年中に行なっていた訪日・訪日企画について、主に財政的理由からそれぞれ隔年開催とすることに決定した。当時の基本的な方針としては、訪日・訪日企画を隔年開催にする代わりに1回ごとの交流事業の規模を拡大し、ロシア側との間にこれまでと同等の交流密度を維持していく、というものであった。その具体的な表れとして、当会会員の実家に出向く「地方企画」など新企画が次々と打ち出された。訪日事業においても同様の路線がとられた。

1999年には新しい試みとしてモスクワ再訪問を行い、現地の学生(プレハーノフ記念経済大学内の国際学生交流サークルであるIAESTEのメンバー)との交流が再開した。

2001年の夏よりモスクワ郊外の街リャザンとの交流が開始された。ノヴォシビルスクとの交流も現地メンバーが大きく入れ替わり、さらに活動は充実した。

2009年、本会は前身の日ソ学生交流会時代も含め20周年を迎えた。この間当会からは長峯誠参議院議員をはじめとして広く社会で活躍する人材を多数輩出している。

2011年の春には嘗てから望んでいた関西本部を設立した。大阪大学・同志社大学の学生を主な会員としている。同年8月にはリャザンから4名を関西に招致して10日間の訪日企画を行った。同時に訪日企画も行ったため、1997年を最後に途絶えていた訪日・訪日企画の同時開催を果たす運びとなった。

2012年は関東関西2本部体制の中で4都市間同時交流という新しい試みを始めた。関東からノヴォシビルスクへ、関西からリャザンへ、また、ノヴォシビルスクから関西へ、リャザンから関東へ、と2つずつの訪日・訪日企画が実施された。この試みは現在も続けられている。

2013年3月には『日ロ学生シンポジウム』を行った。外部の方々を招いての斬新かつ大規模な企画を皮切りに、北方四島学生交流企画への参加など多岐に渡って活動が実施された。新会員を迎え会員数は関東本部だけでも50名にまで膨らみ、本会は量、質ともに飛躍的に発展を遂げる年となった。

2014年では新たな試みとして東京大学の学園祭である駒場祭での出店を行ったことで、本会の活動・ロシアのことについて一般の人に広く知ってもらうきっかけとなった。

2015、16年には会員数が増加、これまでの主な参加大学である東京大学、東京外国語大学、上智大学に加え、慶應義塾大学や東京理科大学、法政大学など様々な大学から会員が集

まるようになり、活動に活気が生まれた。

2017 年には、2016 年度に天候不順によりやむなく中止した北方領土への訪問を果たした。更には、2013 年度に開催された『日ロ学生シンポジウム』を『ミチター』と改め再開する運びとなった上、駒場祭に加えて東京大学のもう一つの文化祭である五月祭へも出店を行い、活動の幅を大きく広げる事となった。

また、本年から当会の関西支部が「セーミチキ」として名を改め別組織として独立した。

2018 年度は、北方領土に住むロシア人とのビザ無し交流、五月祭への出店、シンポジウム『ミチター』を開催した。また、新たな試みとして、ロシア語を勉強する高校生を招待したロシア料理会や、タタールスタン共和国の首都、カザンとの交流を目的とした「カザン班」の設立、活動を行った。

2019 年度も 2018 年同様、シンポジウム『ミチター』を開催した。また、ロシア語教室、料理会、バラライカ教室なども開催した。

1. 2 関東本部について

関東本部は 1989 年に設立された日ソ学生交流会を前身として、現在に至るまでノヴォシビルスク・リャザンとの学生間交流を中心とした活動を行ってきた。近年は訪日・訪ロ企画以外にも、北方領土を訪問するビザなし交流への参加、駒場祭への出店など活動は多岐にわたっている。会員の中心メンバーは上智大学・東京大学・東京外国語大学の学部 1、2 年生だが、OB・OG の方々の努力もあり、早稲田大学・慶應義塾大学など様々な大学から参加を受けている。会員はロシア語が専攻・第二外国語の学生に限らず、ロシアやその周辺地域への関心、学生交流への興味などで当団体に入る者も多くなっている。また、今年度は OB・OG の活動への参加も積極的に受け入れた。ロシアについてのみならず団体活動に関する知識、経験に富んだ OB・OG の参加は心強く、来年度もこの姿勢は継続することが見込まれる。

1. 3 これまでの主な活動

| | |
|--------------|---|
| 1989 年 6 月 | 日ソ学生交流会結成 |
| 1990 年 8 月 | 第 1 回訪ソ企画日本人 13 名をモスクワへ派遣 |
| 1992 年 8 月 | 第 2 回訪ソ企画日本人 13 名をモスクワへ派遣 |
| 1993 年 7,8 月 | 第 3 回訪ロ企画日本人をモスクワ・極東へ派遣 |
| 1994 年 | 第 4 回訪ロ企画日本人をモスクワ・極東へ派遣 第 1 回訪日企画ロシア人 1 名をモスクワから招致 |
| 1995 年 8,9 月 | 第 5 回訪ロ企画日本人 7 名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣 |
| 1996 年 3 月 | 第 2 回訪日企画ロシア人学生 8 名・教師 1 名をノヴォシビルスクから招致 |

- 8,9月 第6回訪日企画日本人10名をイルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
- 1997年3月 第3回訪日企画ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
- 1997年8,9月 第7回訪日企画日本人8名をノヴォシビルスクへ派遣
- 1998年8月 第4回訪日企画ロシア人10名をノヴォシビルスクから招致
- 1999年8,9月 第8回訪日企画日本人16名をモスクワ・ノヴォシビルスクへ派遣
- 2000年8月 第5回訪日企画ロシア人9名をノヴォシビルスクから招致
- 2001年8月 第9回訪日企画日本人10名をノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
- 2002年8月 第6回訪日企画ロシア人をノヴォシビルスクから7名、リャザンから5名
招致
- 2003年8月 第10回訪日企画日本人13名をノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
- 2004年8月 第7回訪日企画ロシア人をノヴォシビルスクから6名、リャザンから3名
招致
- 2005年8月 第11回訪日企画日本人10名をノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
- 2006年8月 第8回訪日企画ロシア人をノヴォシビルスクから5名、リャザンから9名
招致
- 2007年8月 第12回訪日企画日本人7名をノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
- 2008年8月 第9回訪日企画ロシア人をノヴォシビルスクから3名、リャザンから10
名招致
- 2009年8月 第13回訪日企画日本人13名をノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
- 2010年8月 第10回訪日企画ロシア人をノヴォシビルスクから7名、リャザンから7
名招致
- 2011年5月 日本ロシア学生交流会関西本部発足
- 8月 第14回関東本部主催訪日企画日本人14名をノヴォシビルスク・リャザン
へ派遣
- 2012年8月 第11回関東本部主催訪日企画ロシア人10名をリャザンから招致
第15回関東本部主催訪日企画日本人5名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2013年8月 第12回関東本部主催訪日企画ロシア人8名をノヴォシビルスクから招致
第16回関東本部主催訪日企画日本人10名をリャザンへ派遣
- 2014年8月 第13回関東本部主催訪日企画ロシア人9名をリャザンから招致
第17回関東本部主催訪日企画日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2015年8月 第14回関東本部主催訪日企画ロシア人6名をノヴォシビルスクから招致
第18回関東本部主催訪日企画日本人8名をリャザンへ派遣
- 2016年8月 第15回関東本部主催訪日企画ロシア人6名をリャザンから招致
第19回関東本部主催訪日企画日本人10名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2017年8月 第16回関東本部主催訪日企画ロシア人9名をノヴォシビルスクから招致
第20回関東本部主催訪日企画日本人10名をリャザンへ派遣

- 2018年8月 第17回関東本部主催訪日企画ロシア人6名をリャザンから招致
 第21回関東本部主催訪ロ企画日本人6名をノヴォシビルスクへ派遣
- 2019年8月 第18回関東本部主催訪日企画ロシア人6名をノヴォシビルスクから招致
 第22回関東本部主催訪ロ企画日本人11名をリャザンへ派遣

第2章 2019年度の活動について

| 〈年月〉 | 〈活動〉 |
|----------|---|
| 2019年1月 | 定例会開催 |
| 2019年2月 | 定例会開催 |
| 2019年3月 | ロシア料理会開催(高校生と合同)、関東関西合同合宿 |
| 2019年4月 | 新歓活動 |
| 2019年5月 | 五月祭出店(東京大学)、横浜訪問(北方領土ビザ無し交流)、第一回ロシア語教室 |
| 2019年6月 | ロシア料理会開催、第二回ロシア語教室 |
| 2019年7月 | バラライカ教室開催 |
| 2019年8月 | 第三回学生シンポジウム『ミチター』開催、2019年度訪日企画開催(ノヴォシビルスク)、2019年度訪ロ企画開催(リャザン) |
| 2019年9月 | 定例会開催、バラライカ教室開催 |
| 2019年10月 | ロシア料理会開催 |
| 2019年11月 | 定例会開催 |
| 2019年12月 | ロシア料理会開催、全体総会開催(予定) |

・収入 (作成 会計幹事 石渡久美子)

| 項目 | 金額 (円) |
|-----------|-------------------------|
| 昨年度引き継ぎ | 47,578 円 |
| 平和ナカジマ | 400,000 円 |
| 第一回料理会 | 500 円× 9 名、1,000 円× 8 名 |
| 新入生歓迎会 | 53,000 円 |
| 5 月祭売り上げ | 205,000 円 |
| 入会金 | 3,000 円× 74 名 |
| 第一回ロシア語教室 | 1,000 円× 8 名、0 円× 6 名 |
| 計 | 948,078 円 |

・支出

| 項目 | 用途・金額 (円) |
|-----------|---|
| 上智大学フレマン | 参加費 11,000 円 |
| 関西合宿代 | 5,000 円× 1 名 |
| 新入生歓迎会 | 97,362 円 |
| 第一回料理会 | 施設代 6,400 円 食費代 10,600 円 |
| 五月祭 | 参加費 54,000 円 シャシュリク代 30,700 円 花束代 5,400 円 |
| 第二回ロシア語教室 | 施設代 3,100 円 |
| 7 月 9 日 | バッチ代 76,680 円 |
| ミチター | 交流会 33,966 円 ゲスト弁当代 7,469 円 冊子作製費 53,404 円 謝礼費 5,000 円× 8 名 40,000 円 |
| | 計 134,839 円 |
| 訪日 | 負担金 168,705 円 |
| 計 | 729,078 円 |

(文責 泉谷知輝)

弊会は訪日、訪露企画を今夏も行いました。ホームステイを通じて、寝食を共にすること

でお互いの文化、慣習について見つめ直すことができました。両企画の参加者は年々増えており、来年も更なる盛り上がりを期待しております。また近年では、訪日、訪露企画以外の活動にも力を注いでおります。例えば、ロシア関係分野就職促進シンポジウム『ミチター』、ロシア語教室『プロGRESS』、バラライカ教室、ロシア料理会などを行いました。その中でも、五月祭をはじめとした模擬店の出店には会を挙げて取り組みました。模擬店を出店することで一般の方に、ロシア文化を体験していただき、ロシアについて知っていただくことは毎年の出店を経て確立されつつあります。さらに今年は、海老名市のイベントに出店を試みましたが、海老名市は、ラグビーワールドカップロシア代表のキャンプ地でもあり、市民にロシアを身近に感じてもらう絶好の機会でしたが、残念ながら、記録的な台風によりイベント自体が中止となってしまいました。来年は、東京オリンピック開催により多くのロシア人が訪れ、経済的交流、文化的交流、人的交流、様々な形での交流が活発になっていくと思われまます。弊会も、約30年に渡って育んできたノウハウを生かして、イベントに貢献していきたいと考えています。

私たち日本ロシア学生交流会は、草の根的活動を通じて、今後もロシアという隣国をさらに身近なものにしていく所存です。来年の活動もそれぞれの企画を支えて下さる会員の皆様、ご理解とご協力を頂いている助成財団のお力なしには成し得ないものです。今後とも日本ロシア学生交流会を、どうぞよろしく願いいたします。

第3章 2019年度訪日活動報告

- ・企画名…第 32 回日本ロシア学生交流会企画、第 17 回主催企画
- ・企画開催期間…2019 年 8 月 11 日～2019 年 8 月 20 日
- ・主催及び企画…日本ロシア学生交流会関東本部
- ・共催…日本ロシア学生交流会ノヴォシビルスク支部
- ・助成…公益財団法人平和中島財団
- ・企画日程

| 日付 | 活動内容 |
|-----------------|-------------|
| 2019 年 8 月 11 日 | 空港出迎え |
| 8 月 12 日 | ファミリーデイ |
| 8 月 13 日 | ウェルカムパーティー |
| 8 月 14 日 | 鎌倉散策 |
| 8 月 15 日 | ファミリーデイ |
| 8 月 16 日 | 浅草散策 |
| 8 月 17 日 | ファミリーデイ |
| 8 月 18 日 | 上野散策 |
| 8 月 19 日 | フェアウェルパーティー |
| 8 月 20 日 | 空港にて見送り |

・支出

| 項目 | 金額 |
|------------|---------|
| ウェルカムパーティー | 7,232 円 |

| | |
|-------------|-----------------|
| 鎌倉 | 9,159 円 |
| 江戸東京博物館 | 3,600 円 |
| 飲食代 | 10,858 円 |
| 上野動物園 | 1,200 円 (600×2) |
| 国立科学博物館 | 2,480 円 |
| 国立科学博物館 | 620 円 |
| 国立科学博物館ラウンジ | 1,030 円 |
| 東京国立博物館 | 2,480 円 |
| アメ横みなとや食品 | 1,300 円 |
| 原宿 | 3,540 円 |
| 渋谷 | 3,499 円 |
| 交通費 | 13,640 円 |
| 食事代 | 31,192 円 |
| 計 | 91,830 円 |

- ホームステイ

訪日したロシア人は日本人メンバーの家にホームステイした。ロシア人参加者は、日本とロシアの家庭の違いを知ることができる良い機会になったと思う。また、ホームステイ受け入れ者も様々な生活様式の違いを発見することが出来ただろう。

- 都内散策・交流企画

外国人観光客に人気の、秋葉原、上野、浅草に加え、日本の歴史的建造物が立ち並ぶ鎌倉なども散策した。また、例年通りのウェルカムパーティー、フェアウェルパーティーなど、気楽に交流ができる企画も用意した。フレンドリーなロシア人が多かったためか、皆すぐに仲が深まったように感じられた。

- 報告書の作成

今年度の訪日企画によって当会員やロシア人メンバーが得たものや感じたものをまとめ、本活動の意義について報告するため、本報告書を作成する。

・8月12日

ファミリーデー

それぞれの受け入れ先の家族と過ごした。

・8月13日

17:00～ ウェルカムパーティー

19:00～ 都庁展望台

新宿のパーティースペースでウェルカムパーティーを行った。日本人も多く集まってくれた。都庁の展望台まで歩いて東京の夜景を楽しむことができた。

・8月14日

11:00～ 鎌倉散策（小町通り～鶴岡八幡宮）

13:00 昼食

14:00～ 海岸散策

16:00～ 高德院（大仏）

前日の台風による影響が心配されたが、午後には好天に恵まれた。ロシア人たちは海岸を思い思いに楽しんでくれたようでよかったと思う。

・8月15日

ファミリーデー

それぞれの受け入れ先の家族と過ごした。

・8月16日

10:00～ 江戸東京博物館

12:00～ 浅草寺

15:00～ スカイツリー

両国の江戸東京博物館から浅草を回り、スカイツリーの方へ歩いた。足が悪いロシア人もいたので若干心配であったが、適宜休憩を取りながら楽しむことができた。

・8月17日

ファミリーデー

今年はファミリーデイは多めに企画した。
課題も多々あったが、それぞれ充実した時間を過ごせていたようでよかった。

・8月18日

10：00～上野動物園
13：00～国立科学博物館
15：00～東京国立博物館
17：00～アメ横散策

気温が高く暑い日だったので、休憩をはさみながら散策しました。動物園ではパンダをはじめとして、ロシアでは見ることのできない様々な動物がみられて、かなり喜んでもらえた。その後、二つの博物館を通じて、日本文化や日本の自然についても学ぶことができた。アメ横では、食べ歩きをして、お互いの親睦が深まった。

・8月19日

18：00～ 渋谷でフェアウェルパーティー

渋谷の貸しスペースを利用してフェアウェルパーティーを行った。食べ物や飲み物を自分たちで持ち込み、すべてのメンバーが楽しんでいるように感じられた。ロシア人が「ホントにホントによかった。」と言っていて、我々としても嬉しく思った。

ロシア人代表者感想

・ダーシャ

この夏は本当に楽しかったです。日本人の皆さんのおかげでいろいろなことを体験する

ことができました。

たとえば、日本の文化に興味を持っている私は、様々な神社やお寺をまわりました。様々な活動はもちろんのこと、美味しい食べ物を食べたり、私のホストと遊んだりして、日本の日常生活を経験することもできました。

日露のマナさんは、とても親切で私のことを心配してくれました。活動の中で私が特に楽しかったのは、大勢の日本人の素晴らしい人に出会って仲良くするチャンスがあったことです。これは日本語を生かすのにはとても役に立ちます。

お世話になりました、ありがとうございます。東京の10日間は心に残って、絶対わすれないです！

日本人参加者感想

・法政大学1年 遠入身延

Здравствуй те (こんにちは) と話しかけると笑顔で返事をしてくれた。初めてロシア人と会話した瞬間だった。私はこの春、大学入学を機にロシア語の学習を始めた。まだ流暢の域には程遠く、簡単な挨拶や自己紹介しかできない。それでも彼らは私の拙いロシア語に耳を傾け、理解しようとしてくれた。更に街を歩いていると「これはロシア語で〇〇っていうんだよ」という風に身近な単語を教えてくれた。お返しに日本語を教えてあげたかったが、まだ語学力が追いついていない。言いたいことを伝えられず、非常に悔しい思いをしたのを今でも鮮明に覚えている。来年の訪露企画では今回来日したロシア人達のもとを訪ねるそうだ。より一層学習に励み、今度はもっとロシア語を話せるようになって再会を果たしたい。

・上智大学1年 松田怜耶

定型文のような始まり方ではあるが、今回訪日企画に参加したことは自身にとって非常に貴重な経験であった。ロシア語の学習を行う中で通常の人と比較して何らかの形でロシアと触れ合うことは多いが、いざロシア人と触れあう機会となると大学の教員の先生方や、せいぜいインターネット上で知り合ったロシア人といったところであり、実際に現実世界で同年代のロシア人と話すという機会は片手で数えられる程であった。そんな中今回の訪日企画では来日した同年代のロシア人と実際に話すという貴重な機会に恵まれ、話をしていて楽しいと感じることができる人々、戦闘機の話で盛り上がったアレクサンドルや帰りの成田までのバスで政治の話にのってくれたアンドレイなどに出会うことができた。自身は今回この経験によって、実際のロシアとはどのようなものかということに身染みまで理解することができたのではないかと考えている。彼らとは現在でもインターネット上で連絡を取り合っており、彼らの人となりやバックグラウンドを理解することは、その後の

自身のロシアへの渡航でも様々な形で役に立った。このような素晴らしい機会を提供してくれたロシア人、そして日露学生交流会に感謝しこの感想文を終える。

ホストファミリー感想

・東京大学3年 杉本恵理佳

私が担当したダーシャは日本語がとても達者だったので、毎日今日はどこに行って何をしたいか、何を食べたいかなど様々な要望を聞いて、それに合わせてプランを考えられたので満足してもらえたかと思います。また今年は、ファミリーデーが例年よりも多かったのも、例年よりも個々人の希望を叶えやすかったかと思います。私は以前から何度かホームステイを受け入れた経験はありましたが、日露の訪日プログラムには毎年多くの日本人が参加するので日本人同士でも交流が深まり、とてもいい経験になります。

ただ、今年は団体行動の日が少なく、他のロシア人や日本人とあまり深く仲良くなれなかったのも、その点が少し残念ではありましたが、でも全体的に、得るものが大きくやりがいのある活動で、参加してよかったと思います。

・早稲田大学2年 泉谷知輝

今年の訪日企画では、ノヴォシビルスクからアンドレイを受け入れた。10日間のホームステイの受け入れは私にとって文化や考え方の違いに触れることのできる貴重な機会だった。東京中を案内したことはもちろんだが、24時間寝食を共にすることで、彼らの普段の生活や社会情勢を垣間見ることができた。日本人だけのときとは違い、ロシア人は皆時間通りに集合場所に来ないので予定通りに進まないこともあったがそれもいい経験である。10日間という短い期間ではあったが、無二の友を得ることができた。来年、ロシアで会うのを楽しみにしている。

今回の訪日企画の反省点として、ホームステイの受け入れ体制が万全ではなかったことが挙げられる。受け入れ側の不測の事態や自由行動日を増やしすぎてしまったことにより、ロシア側、日本側双方に多大な負担をかけてしまった。今年の反省を来年は改善していきたい。

第4章 2019年度訪日活動報告

- ・企画名…第32回日本ロシア学生交流会企画第22回関東本部主催企画
- ・企画開催期間…2019年8月19日～2019年8月30日

- ・主催及び企画…日本ロシア学生交流会関東本部
- ・共催…日本ロシア学生交流会リャザン支部
- ・助成…公益財団法人平和中島財団
- ・企画日程

〈日付〉 〈活動内容〉

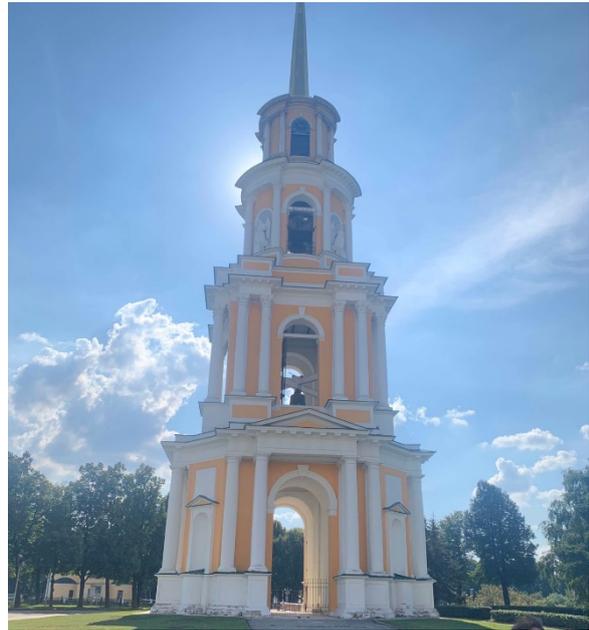
2019年8月19日出発

- 8月21日 リャザンスキークレムリン見学、ウェルカムパーティー
- 8月22日 モスクワデー
- 8月23日 ファミリーデー
- 8月24日 コンスタンチノヴォ散策
- 8月25日 リャザンの公園にてロシアの伝統遊び、ダンスなどをする
- 8月26日 動物園散策
- 8月27日 学生とのオリンピックに関する討論会、お土産購入デー
- 8月28日 フェアウェルパーティー
- 8月29日出発

(文責 本橋絢音)

・8.21 リャザンスキークレムリン見学

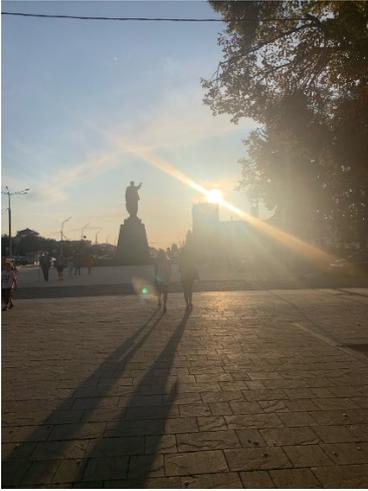
ウェルカムパーティー前にリャザンにあるクレムリンやその周辺を散策しました。女性は頭から布を被りクレムリンの中にある礼拝堂を見学しました。クレムリンに続く道がある際、アコーディオンを弾いたおじいさんがいました。そのおじいさんはロシアの有名な民謡である「К а т ю ш а」を歌っていて、私とホストファミリーはおじさんと歌いながら歩きました。とても良い思い出です。散策後のウェルカムパーティーではリャザンにあるショッピングモールにあるピザ屋さんで行われました。慣れないロシア語を使う日本人に対して、ロシア人たちは一生懸命と聞き取ろうとしてくれており、ロシア人の暖かさを感じました。



・8月22日 モスクワデー

朝早くから駅に集合して一行はモスクワに向かいました。モスクワに着き、赤の広場の近くまで地下鉄に乗りました。以前からモスクワの地下鉄は素晴らしいものと聞いていましたが、想像を越える装飾、彫刻が隅々まで施されていました。その日、赤の広場では世界の軍楽隊が集まって音楽の祭典の準備が行われていました。私はずっと前から聖ワシリー寺院に行くことが夢で、本当に良い思い出になりました。近くにあるスターバックスでロシア限定のタンブラーをお土産として購入する人が多く、皆嬉しそうに写真を撮っていました。その後トレチャコフ美術館に行きました。海外の美術館は撮影が可能であるので、授業で習った絵画や見てみたかった彫刻物などを思う存分写真に納めました。帰りの電車は鈍行で、4時間以上かけてリヤザンに帰宅しました。とても忙しい1日でしたが楽しい思いをすることができました。

・8月23日 ファミリーデー



私のホストファミリーはリヤザン国立大学に通う大学生でした。私たちはファミリーデーの日、夕方からリヤザンで行われているお祭りに行きました。お祭り会場の近くにあるレーニン像とツーショットを撮ってもらい、出店でお土産を買ったり、路上ライブをしている人の歌を聞いたりしました。その後、リヤザンの街を2人で話しながら散策しました。ホストも私もイギリスのロックバンド「ビートルズ」が好きなので2人で歌ったりしました。

・8.24 コンスタンチノヴォ散策



この日バスで移動すること1時間、リヤザン州の外れにあるコンスタンチノヴォという町に行きました。そこではまず、教会を見学しました。協会から少し離れたところに湧水があり、その水を見学を訪れた人たちがみんな飲んでいました。その後、ロシアな有名な詩人であるセルゲイ・エセーニンの記念博物館に行きました。そこにはエセーニンの生家や礼拝堂、農民学校などがあり、まるで20世紀初頭のロシアにタイムスリップしたかのような気分になりました。

・8.25 リヤザンの公園

この日はリヤザンにある自然豊かな公園でロシアの民謡に出てくるヤガーばあさんにまつわる遊びなどをはじめとするロシアの伝統的なゲーム、ダンス、人形作りをしました。最初は、訪露団、受け入れてくれたロシア人学生たち、このイベントを企画してくれたロシア人と活動をしていましたが、少しするとその公園を散歩していたロシア人たちも集まり、みんなでゲームをしたりしました。ロシア人の気さくさ、温かさをまた感じました。

・8.26 動物園散策

リヤザンにある、テーマパークのような公園・動物園が一緒になった場所に行きました。公園内にはたくさんの遊具があり、日本人もロシア人もみんな童心に帰って思い思いに遊びました。動物園にはウサギや馬、あひるなどがいました。お昼はみんなで持ち寄ったご飯を公園にある机で食べ、近くにあった湖にいた白鳥にお菓子などをやりました。ロシアは本当に自然豊かな場所で、気候もその時はちょうど過ごしやすかったです。

・8.27 学生とのオリンピックに関する討論会、お土産購入デー

前半はリヤザン国立大学へ行き、ロシア人学生と2020年開催予定の東京オリンピックについての討論会を行いました。日本人はロシア語で、ロシア人は日本語でそれぞれ助け合いながら発表しました。その後、ロシア人の学生たちが日本のポップスに合わせてダンスをしたり、日本の歌を歌ってくれたりしました。後半は各ホストに分かれてお土産を買いに行きました。私はホストと友達と友達のホストと大きいショッピングモールに行きました。その時に購入したロシア語の勉強用のノートは、今ロシア語の授業に時に使っています。



・8.28 フェアウェルパーティー

パーティーでは、シニョーフ・ロマンさんというリヤザン無線工学大学の准教授のダーチャ（別荘）で行われました。そこではシャシリクを食べたり、パーティー用に作ってくれたケーキを食べたり、ロマンさんによる合気道の披露、日本人側による日本舞踊の披露などをし、有意義な時間を過ごしました。寒くなると、ロマンさんがサモワールで紅茶をいれてくれました。



訪日感想

・上智大学1年 本橋絢音

「選考の結果、本橋さんにも訪露団への参加をお願いすることになりました！」このメッセージが来た時私は文字通り飛び跳ねました。もちろん、1年前の私はまさか大学入学したばかりの1年生の夏休みに憧れのロシアに行けるなんて思ってもいませんでした。ただ、嬉しい反面まだ上手くロシア語を話すことができない私がロシアに行ってもいいのか、という複雑な思いもありました。しかし、実際にロシアに着くと、ホームステイ先のロシア人や、訪露でのホームステイを受け入れてくれた他のロシア人たちは、私の拙いロシア語を理解してくれようとしていたり、一緒に手巻き寿司を作ったり、歌を歌ったり、ロシア語を教えてくださいと温かく迎えてくれました。私たち訪露団がステイしたリャザンという場所は首都モスクワから約200kmほど離れている場所に位置し、自然が多く、とてものんびりした場所でした。リャザンに在住のロシア人たちは、横断歩道を渡る時、どんなに車が走っていても歩行者優先で車を止めてくれたり、訪露団がロシアの伝統的なダンスや遊びを教えてもらっている際、途中から地域の人たちも参加したりと、日本人の多くが多分想像するであろうロシア人像とは全く異なり、とても優しく、親切で気さくな方ばかりでした。

モスクワ散策の日は、夢にまでみた憧れの「赤の広場」、「聖ワシリイ大聖堂」、「トレチャコフ美術館」などにいきました。モスクワはどこをとっても絵になる、本当に素敵な街でした。また、この訪露を通して、ロシア語に対する思い、やる気が上がり、本当に良い経験をすることができました。私は今後、大学生活においてロシア留学を考えていますが、その上で今回の訪露の反省点・改善点を活かしていけたら良いと思っています。今回の訪露企画にあたり、日露双方の様々な方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

・上智大学1年 山縣勇介

訪露で人生初のロシアに行きましたが、ロシアで過ごす10日間弱はとても充実したものになりました。最初は学生だけでロシアに行く事に対し一抹の不安がありましたがロシアに到着してすぐにそれが杞憂だと分かりました。リャザンのロシア人はみな私達との交流に積極的で、たどたどしいロシア語を使いながらもコミュニケーションを取れた事は本当によく記憶に残っています。(みんな英語が上手だったのでロシア語喋れなくても全然平気です!)モスクワへの遠征も楽しかったですが、リャザンでの生活は"本当のロシア"を知れたような気がします。市内のクレムリンを訪れたり、ロシアの伝統的な踊りや遊びに挑戦したり、ホストとペリメニを一緒に作ったり、スーパーで買い物したりと枚挙に遑がありません。初めてのロシアをこの訪露企画で体験出来た事を本当に嬉しく思います。ロシアに行くまでは少しハードルが高いと感じていた国ですが、これからも遊びに行きたいと思うようになりました。

〈補足〉

・ロシア関係分野就職促進シンポジウム『ミチター』について

学生時代にロシアに携わる仕事の存在を認識せずに、就職活動を終わってしまうという現状を打開するために、日露間の最前線で活躍されている業務形態の多様な社会人を召集したシンポジウムを行っている。来場者は、ロシア関連学科在籍者、ロシア関係学生団体構成員、ロシア語を学ぶ高校生など、ロシアについて一定の知識や見解を持つ者を中心に、「ロシア」に可能性を感じている者を100～150名ほどである。その上で、懇話会の開催などの継続的な活動に繋げることを念頭に、登壇者・参加者の各々に有意義な印象を与えるような企画を作り上げ、ロシア関連におけるキャリアの展望を拡充している。

・交流都市の紹介

・ノヴォシビルスク

今回の訪日企画では、ノヴォシビルスク支部の生徒を招致した。ノヴォシビルスクはノヴォシビルスク州の州都で、シベリアの中心都市である。モスクワの東3191km、西シベリア平原に位置している。平均気温は年間を通じて+0.2℃であり、7月で+19℃、2月で+19℃となっている。人口はロシア国内第3位の約158万人であり、近年もこの人口は増加を続けている。この街を中心に鉄道および道路が数方向に延びており、交通上の結節点となっている。

ノヴォシビルスクの起源は1893年にシベリア横断鉄道建設の過程で生まれたノーヴァヤデレヴニャという街である。その後何度かの名称変更を経て、最終的には1925年に新しいシベリアの都市という意味のノヴォシビルスクに名称変更された。

何もなかった場所でノヴォシビルスクが急成長したのは、シベリア横断鉄道とオビ川の水路が交差するという地理的優位性にある。街の創設から70年未満で人口が100万人を超えたのは世界でも最速で、ギネス記録にも認定されている。ソ連時代に政府がシベリア・極東における研究開発などの拠点として位置づけたことに加え、第2次世界大戦中には多数の工場や住民が疎開してきたことから、その発展は加速された。

ノヴォシビルスクはロシア東部のビジネス、商業・金融、工業、学術、文化の中心都市であり、シベリア連邦管区の行政・管理機能を有している。ロシアの都市でありながら資源採掘に依存せずに発展しており、工業的には航空機や原子力工業をはじめとする加工・知識集約型部門が中心である。1990年代後半からは商業も発展しており、2007年には巨大商業センターも開業した。ノヴォシビルスク大学など多数の高等教育機関や研究所が集積している。街の中心から南28kmの場所にはアカデミーチェスキーゴロドク(アカデミー小都市)も存在する。

・リャザン

今年の訪ロで訪れたリャザンはリャザン州の州都である。面積は約224km²で、モスクワ

の南東 150~200km、オカ川とトウルベジ川が合流する地点に位置している。平均気温は夏で 19°C、冬で -11°C となっている。人口は約 53 万人であるが、近年は高齢化が進んでいることから人口は減少している。鉄道や幹線道の交差点、空港、河港が存在することから交通の要衝となっている。リャザンの起源は年代記の 1031 年に記載されているリャザン公国のペレヤスラヴリリャザンスキーという街である。商業・軍事の中心都市から 13 世紀末には州都となった。1521 年にモスクワ公国に併合されてからは 18 世紀までモスクワ南東の防衛拠点となったのち、1778 年にリャザンと改名された。

19 世紀中頃までリャザンは行政、商業が中心であり工業部門の発展は僅かであった。しかし、19 世紀末に鉄道が敷設されて交通の中心地となったことで工業部門も発展し、多くの工場が建設された。ソ連時代の 5 カ年計画によっても発展は進められ、現在でも機械、石油加工などが盛んな工業都市となっている。

リャザンは行政、文化、交通の中心であり、ラジオ技術、農業、教育、医科のような大学や研究所、劇場、博物館がある。旧市街には 1059 年建造のクレムリンのある地区に修道院や教会など数々の建造物が保存されている。

・ロシア語教室について

ロシア語初心者及びロシア語に興味のある一般の方を対象に、弊社主催でロシア語教室を開いた。担当講師には東京都立北園高校と早稲田大学高等学院にて講師をしておられる福田知代先生を招待して講演していただいた。ロシア語自体が初めてである、という方にも分かりやすいように、キリル文字の由来や日常で使える表現を交えて、丁寧に解説して下さったので大変好評であった。今後も、言語というアプローチでロシアに興味を持つ人を増やしていきたい。

・ロシア料理会について

本場のロシア料理を忠実に再現した。ロシア料理を作る機会が皆あまりなかったので、興味津々で作った。料理を通じて、ロシア人との会話や日本人同士の会話にも花が咲き、五感で楽しむことができた。3 月には、ロシア語を学習している高校生を招いて料理会を開いており、新歓のイベントの一つとしても活用した。

・バラライカ教室について

会員向けにバラライカに触れる機会をつくった。東京バラライカ・アンサンブル首席奏者

の八田圭子先生のご協力により実現した。今後もロシア関係分野における講師をお招きして、ロシア文化を学ぶ機会を設けていきたい。

・関西合宿について

弊会とセーミチキ(旧関西本部)の協力体制強化のために合同合宿を開催した。今年は関西へ弊会のメンバーを派遣した。普段あまり関わりのない両サークルの親睦を深める良い機会であり、とても有意義な活動である。既に来年度の合宿の開催が代表同士で話されている。